



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二九七号）

穀雨こくう

四月二十日

平成感謝の記帳

平成の時代もあとわずか。御大礼奉祝委員会が設置した平成感謝の記帳に行ってきました。

現在の天皇陛下が退位され、新天皇が即位されることに伴う「代替わり」により、新たな元号に変わります。『平らかに成るように』という願いが込められた平成という元号。初めて耳にした時にはとまどいも感じましたが、三十一年を経た今はすっかりとなじみました。

記帳所は、伊勢神宮内宮前と伊勢市役所にあります。私は市役所へ出向きました。名前と住所を記すと、その証として、小さな勾玉をいただきました。長さ三センチ、私の親指ほどの勾玉。なんでも伊勢の土で形作り、素焼きしたものと説明にあります。素朴な風合いで、手に乗せると思いのほか軽く、一つ、孔あながあげられています。

この孔は、勾玉がもともと首飾りやえり飾りなどの装身具に用いられていた古代、紐を通すために端に開けられていたもの。勾玉は翡翠ひすいや瑪瑙めのう、水晶などを材料にしていますが、湾曲わんきよくした形は縄文時代の動物の歯しがに孔をうがったものであったと考えられています。この勾玉も紐を通せば、首飾りになるわけです。

また勾玉は、八尺瓊曲玉やさかにのまがたまとして、代々の天皇が受け継いできた三つの宝物「三種の神器しんぎ」の一つになっています。皇位の象徴でもあるのです。

四月十七、十八日の天皇皇后両陛下の伊勢参拝にも、剣とともに爾（曲玉）もお持ちになりました。

平成を惜しむ春四月です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ おかげ横丁端午の節句

5月5日は、「端午の節句」です。おかげ横丁では、男子の健やかな成長や立身出世を願い、鯉のぼりを立て、古きよき日本の伝統文化を大切にして、「端午の節句」をお祝いします。

と き／4月27日(土)～5月6日(祝・月)
10:00～17:30(催しによって異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

● ときわまんさく差し上げます

5月4日の「みどりの日」に合わせ「ときわまんさく」を皆様に大切に育てていただこうと、約200株の苗を無料配布いたします。

「ときわまんさく」は、伊勢神宮をはじめ、熊本県の小岱山^{しょうたいさん}、静岡県湖西市神座地区の3か所に見られる貴重な樹木です。

と き／5月4日(祝・土)10:00～ なくなり次第終了
ところ／伊勢路栽苑

五十鈴塾

○ 三重の神饌

「祭りの食」は多様性を垣間見せ、同時に独自の風土を浮き上がらせています。祭りには神仏に供える「食」が重要な要素としてありますが、神社で供えられる食は明治時代に画一化され、全国共通の神饌となります。その一方で昔ながらに地区の人々が手作りし、供える食もあります。今回は米文化である鏡餅、粥、酒、そして肉食が禁じられた日本で動物性たんぱく質の供給源となっていた海魚、川魚をテーマに、伊勢神宮の神饌ではどのような魚が使われているのか。また、伊勢志摩地方の神社の祭典では、なんの魚が選ばれ、どのような形で供えられ、それが神さまの「お下がり」として参列者などにどのように分配されているのか。書籍の取材を通して、見て、聞いて、考えたことをお話いただきます。

と き／4月22日(月) 13:30～15:00

講師／千種 清美(文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加費／一般1,300円 会員800円

集合／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

しんめ
神馬

神宮の神馬といえ、もとは皇室ゆかりの御料馬。御紋入りの衣をまとい、厳かに進む神馬の出立ちを、水餅をまぶした道明寺で表しました。

ふじなみ
藤波

穏やかな春風に、さざ波のように揺れる藤。薄紫色のきんとんで幾筋にも咲く藤の姿を写しました。

みずも
水藻

五十鈴川の岸边から川面へ向け目を凝らすと、日差しに照らされて、きらきらと水藻が揺らめく様子が見えます。その光景を葛寒天と羊羹で、透き通るように表現しました。